

# 水稻高標高試験圃の生育状況(令和3年)

農業試験場原村試験地(標高1,017m)

調査時期	調査項目	きらりん(参考)				ゆめしなの				あきたこまち			
		前年(R2)	平年	本年(R3)	平年差	前年(R2)	平年	本年(R3)	平年差	前年(R2)	平年	本年(R3)	平年差
移植後 20日	主稈葉数(枚)	6.2	6.1	6.4	+0.3	6.1	5.9	6.3	+0.4	5.8	5.9	6.3	+0.4
	草丈(cm)	33	28	28	98%	37	30	32	107%	30	26	26	101%
	茎数(本/m <sup>2</sup> )	142	119	105	88%	89	103	80	78%	94	100	75	75%
移植後 30日	主稈葉数(枚)	7.7	7.7	7.7	±0	7.6	7.5	7.5	±0	7.3	7.5	7.7	+0.2
	草丈(cm)	39	34	30	87%	41	35	33	94%	33	30	26	87%
	茎数(本/m <sup>2</sup> )	350	269	200	74%	218	220	143	65%	188	192	127	66%
移植後 40日	主稈葉数(枚)	9.4	9.5	9.4	-0.1	9.1	9.0	9.3	+0.3	9.2	9.2	9.3	+0.1
	草丈(cm)	55	49	42	85%	55	51	45	88%	43	42	37	89%
	茎数(本/m <sup>2</sup> )	610	497	416	84%	414	456	282	62%	360	407	294	72%
移植後 50日	主稈葉数(枚)	10.0	10.6	10.4	-0.2	10.2	10.2	10.3	+0.1	10.3	10.4	10.2	-0.2
	草丈(cm)	66	61	58	95%	60	67	61	92%	56	55	51	93%
	茎数(本/m <sup>2</sup> )	564	589	431	73%	428	533	366	69%	416	500	399	80%
幼穂形成期	期日(月日)	7/1	7/2	7/7	+5	7/9	7/11	7/13	+2	7/16	7/15	7/19	+4
出穂期	期日(月日)	7/28	7/30	8/2	+3	8/6	8/4	8/5	+1	8/10	8/9	8/10	+1
成熟期	期日(月日)	9/8	9/11	9/14	+3	9/16	9/20	9/22	+2	9/25	9/28	9/26	-2
	稈長(cm)	66	71	70	100%	83	82	76	93%	76	81	78	96%
	穂長(cm)	17.7	18.5	18.4	99%	18.1	18.3	19.9	109%	17.7	17.3	17.7	102%
	穂数(本/m <sup>2</sup> )	533	525	494	94%	410	423	334	79%	345	399	389	98%
	玄米重(kg/a)	52.5	59.3	50.7	85%	69.1	65.4	55.1	84%	62.4	62.1	61.0	98%
	千粒重(g)	19.9	21.1	21.5	102%	20.6	22.1	22.0	100%	20.3	21.7	21.5	99%

平年値:平成26年～令和2年のうち収量最高、最低年を除く7中5年の平均。

移植日:令和3年5月25日 1株3本手植え 中苗、栽植密度:22.2株/m<sup>2</sup>(30cm×15cm)

移植後20日の生育は、いずれの品種も主稈葉数はやや前進、草丈は平年並み、茎数は少ない傾向である。

移植後30日の生育は、いずれの品種も主稈葉数は平年並み、草丈はやや遅れ、茎数は少ない傾向である。

移植後40日の生育は、いずれの品種も主稈葉数は平年並み、草丈はやや遅れ、茎数は少ない傾向である。平年対比は移植後30日時点と概ね同等であるが、「きらりん」、「あきたこまち」の茎数はやや増加傾向である。

移植後50日の生育は、いずれの品種も主稈葉数は平年並み、草丈はやや遅れ、茎数は少ない傾向である。期間中の気象は、気温は平年並みであったが、平年より大幅に多雨、低日照であった。

幼穂形成期は、平年より「きらりん」で5日、「ゆめしなの」で2日、「あきたこまち」で4日遅かった。

出穂期は、平年より「きらりん」で3日、「ゆめしなの」、「あきたこまち」で2日遅かった。

成熟期調査では、「きらりん」、「あきたこまち」は稈長、穂長、穂数ともに平年並みであった。「ゆめしなの」は稈長がやや短く、穂長がやや長く、穂数が少なかった。

成熟期は「きらりん」で3日、「ゆめしなの」で2日遅く、「あきたこまち」で2日早かった。

玄米重は、「きらりん」、「ゆめしなの」で平年より少なかった。いずれも、栽培期間通して分けつが少なく、穂数が少なかったこと、収量構成要素調査の結果、登熟歩合が低かったことが影響したと考えられる。「あきたこまち」は平年並みであった。